

## 臨海3Rステーションイベント紹介 ビニール傘レスキュープロジェクト

平成28年3月27日(日)臨海3Rステーションで開催した「クリンパ! 元気フェスタ」。市民に環境を考え体験してもらおうイベントの中で、ビニール傘レスキュープロジェクト～マイ傘を作ろう～というワークショップを行いました。

臨海3Rステーションでは地下鉄や警察署、スーパーなどで一定期間保管された後、行き場のなくなった傘を受け入れています。傘は館内で無料提供していますが、ビニール傘が残るため、これを救うにはどうしたら良いか考えマイ傘作りの提案をしています。思い入れたっぷりの物は大切に使いますよね。ちょっとした工夫で楽しくエコしましょう。

### ビニール傘でマイ傘を作る手順

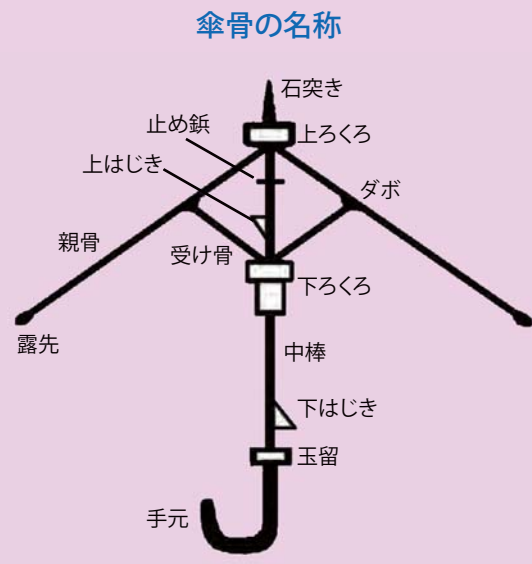
1. 傘が使えるかどうかを点検します
2. 傘の内側に油性マーカーで自分の好きな絵を描きます
3. 持ち手を裂き布(傘布)を利用して包みます
4. 世界で1本のマイ傘のできあがり!



傘に好きな絵を描いてみよう



絵本のようなマイ傘ができました



傘の修理は簡単にできます。よく壊れる部分の修理方法です。

- ① 強風や、人とぶつかった時などに一番折れやすい場所はダボの部分です。
- ② 折れ曲がった親骨を真っすぐに伸ばし、修理箇所を中心に**三ツ爪**または**四ツ爪**を親骨にかぶせます。(イラストは三ツ爪)
- ③ ペンチなどで親骨に巻きつけるように爪を折り曲げて締め付けると完成です。

## 知っていますか? 傘を取り巻く現状

突然の雨に困った経験はありませんか? そんな時、傘をレンタルやシェアすることで不要な傘の購入が減れば、何本も不要な傘を持つことがなくなります。国内外のさまざまな取り組みを紹介します。

- 佐賀県佐賀市  
市営バス車内に常時、無料貸出し用の傘が4~5本備えてあります。急な雨の時などに利用できるようになっていて、どの市営バスでもいつでも返却ができます。
- 三重県鳥羽市  
平成26年12月25日から無料レンタル傘「恋する雨傘」が始まりました。温泉振興会から鳥羽を訪れた観光客へのおもてなしのひとつとして設置され、レンタルした雨傘は設置施設で貸出し・受け渡しができます。
- カナダ・バンクーバーのブリティッシュコロンビア大学  
傘のシェアリングサービス「UmbraCity(アンブラシティ)」は大学の構内5カ所にそれぞれ40本の傘を備えた自動貸出しスタンドを設置しています。事前に会員登録をしたユーザーなら、専用端末を使っていつでも必要なときに借りることができます。貸し出しから48時間以内にいずれかのスタンドに返却すれば利用料は無料。48時間以降は1日経過するごとに2ドルが課金されますが、上限は20ドルと決まっています。



### エコマークを探してみよう

エコマークとは、私たちのまわりにある商品の中で、環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品にのみ与えられる環境ラベルのことです。エコマークは商品の一生(資源採取からリサイクル・廃棄までのライフサイクル全体)を考慮して基準が作られています。

例えば、シャープペンシルやボールペンについているエコマークを見ると、「プラスチックの再利用〇〇%」と表示されています。トイレトペーパーは「古紙パルプ配合率〇〇%」などの表示です。この認定情報にはその商品の代表的な特徴が示されています。

エコマークが付いている商品を購入して、環境にやさしい生活を心がけましょう。



エコマークの一例



エコマーク:「私たちの手で地球を、環境を守ろう」という願いを込めて、「環境(Environment)」および「地球(Earth)」の頭文字「e」を表した人間の手が、地球をやさしくつつみ込んでいるすがたをデザインしています。

(参考:公益財団法人日本環境協会エコマーク事務局ホームページ)

## コラム「愛縁機縁」 梅雨空の楽しみ方

雨降りのうっとうしい気分を少しでも和らげたい。昔の人々はそのため梅雨どきの過ごし方に知恵を絞った。その一つが「傘かしげ」。他人を思いやり他人と共生するマナーを作ってお互いを尊重しあった江戸時代の先人の知恵に感心する。

傘かしげとは、狭い道でお互いにすれ違う時に人のいない外側に傘を軽く傾けて、相手の身体に雨のしずくがかからないようにすることで、他人を思いやる動作は、同時に自分のためでもあった。昔の傘は竹と紙でできており、不用意に突き進めば傘と傘がぶつかって傘の紙が破れたり、竹製の骨が折れたりするので、余計な費用までかかることになり取り扱いには相当気を使っていた。

今から40数年前ごろから海外から安価なビニール傘が大量に入ってきた。以来、傘といえば使い捨てのイメージになった。安いし、無くしても壊しても替えがある気楽さに日本の若者の約25%がビニール傘の愛用者である。ちなみに日本の人口でいえば約14%に達し、これは世界平均の約8%を大きく上回っている。

使い捨て時代に逆行するように私の傘は愛用20数年になる。友人が初の海外旅行でフランスに行き、緊張続きのまま帰国の途へついた。土産を買う気持ちの余裕もなかったことに気づき、慌てて成田空港の免税店で買ったという名画をプリントした傘を私に土産だと言ってくれたものだ。これには後日談があって、土産にもらって10数年も過ぎた頃だったか、とあるブティックのセール商品として1本1,000円で販売されていた。皮肉なことにブティックへ一緒に行った友人が傘の送り主であった。買い物の後、ティールームに落ち着いた時に「あれは香港かどこかで偽物が作られているんじゃないかしら。お土産はあんな安物じゃないからね」。

たかが傘されど傘。高かろうが安かろうが、何ごとも縁あっての品物。思い出のある1本の傘を大切に置き忘れないように使い続けるのもよし、ビニール傘に思い切り面白い絵を油性マーカーで描いて世界に一つしかないマイ傘を愛用するもまたよし。梅雨空を楽しむ方法はいくらかでもある。(鮎)

